

芦屋港活性化に関する、芦屋港活性化推進委員会答申以降の主な経緯

日 付	内 容
平成 31 年 1 月 10 日 (木)	答申 (推進委員会委員長から町長へ)、記者発表
平成 31 年 1 月 23 日 (水)	芦屋港活性化本部会議 (素案の決定)
平成 31 年 1 月 25 日 (金)	副知事訪問、地元選出県議会議員訪問 (町長及び芦屋町議会にて副知事へ素案の提出、県幹部を交えた意見交換)
平成 31 年 2 月 7 日 (木)	芦屋町議会・芦屋港活性化特別委員会 (素案の説明)
平成 31 年 2 月 15 日	住民周知 (広報あしや 2 月 15 日号掲載)
平成 31 年 2 月 15 日 (金) ～3 月 14 日 (木)	パブリックコメント ※意見 4 件
平成 31 年 3 月 1 日	住民周知 (広報あしや 3 月 1 日号掲載)
平成 31 年 3 月 7 日 (木)	漁協芦屋支所への説明会
平成 31 年 3 月 22 日 (金)	芦屋港活性化本部会議 (基本計画の決定)
平成 31 年 3 月 29 日 (金)	国土交通省「釣り文化振興促進モデル港」に指定
平成 31 年 4 月初旬	芦屋港活性化基本計画書の県提出、推進委員及び関係者への配布
平成 31 年 4 月 10 日 (水)	海釣機能専門分科会 (釣り文化振興促進モデル港指定に伴う施設運営協議会設置にむけた協議)
平成 31 年 4 月 15 日	住民周知 (広報あしや 4 月 15 日号掲載、基本計画概要版全戸配布)
平成 31 年 4 月～令和元年 7 月	福岡県と芦屋町による事務協議
令和元年 7 月 18 日 (木)	福岡県からのレイアウト変更提案
令和元年 8 月 9 日 (金)	芦屋港活性化本部会議 (県提案、今後のすすめ方に関する審議)

芦屋港活性化基本計画（素案）に対するパブリックコメントの結果について

1 実施期間

平成31年2月15日（金）～ 3月14日（木） 28日間

【告知方法】 町ホームページ及び広報あしや（2月15日号、3月1日号）で告知

役場（芦屋港活性化推進室・総合案内）、芦屋中央公民館、芦屋東公民館、山鹿公民館、町民会館、総合体育館で素案の配布
遠賀漁業協同組合芦屋支所説明会開催、芦屋港活性化推進委員、基本計画策定関係者・関係団体へ文書案内

2 意見提出者数

4名（4件）

3 提出方法

持参2名、郵送1名、メール1名

4 意見の概要と町の考え方

番号	意見の概要	町の考え方
1	<p>事業計画には反対である。</p> <p>マクロの視点では、人口の減少と流出には歯止めがかからない。日本経済はもはやかつてのように成長しない。</p> <p>ミクロの視点では、道の駅タイプの施設は飽和状態で、過当競争になり共倒れの公算が大である。</p> <p>【提案】</p> <p>人を呼ぶなら東京から呼んではどうだろうか。</p> <p>東京にはいくらでも人がいる。</p> <p>例えば新宿区役所に行き、「土地を提供するから、芦屋町に区民のための滞在施設を建ててはどうか」と提案する。ただし格安で長期滞在の施設である。飲食の提供はなしで、外食か自炊か買出しである。</p> <p>それでも人が町に滞在すれば飲んで食べて移動するため、まちがいなく地元にお金が落ちる。</p> <p>施設の建設資金は、格安で長期滞在なので、いわゆる助成金や交付</p>	<p>本計画は、地方港湾として位置づけられている「芦屋港」について、十分に活用されていない物流港の位置づけから、観光レジャー要素を持った港へ用途を変更し、芦屋町の海の魅力を活かした地方創生・観光まちづくりを推進する拠点となるための考え方を示したものです。</p> <p>人口減少については、これに伴う経済効果を補うため、芦屋町の交流人口（来訪者）を増やすことで経済効果を拡大させることが、目的のひとつとなっています。</p> <p>また、道の駅や同じような形態の直売所などについては、近隣に多く立地しています。計画の直売機能については、こういった周辺環境やそれぞれの特徴を考慮し連携していくことで共存できる仕組みづくりを構築していく考え方となっています。</p>

番号	意見の概要	町の考え方
1	<p>金を充てる。</p> <p>芦屋町は間違いなく田舎である。だから売りは田舎しかない。都会では、この田舎こそ商品価値がある。新宿区民にはこの芦屋町の田舎ぶりをぜひとも満喫してもらいたい。なかには町に定住したいという人が出るかもしれない。施設の維持管理は町が責任をもって行う。それに加えて北九州空港との無料送迎のアピールも忘れずに。</p> <p>早速町のPRビデオを作って、東京に進撃を開始しましょう。</p>	
2	<p>昨年7月の豪雨によりヘドロが湾内に入ってきて、福岡県に浚渫してもらったが、予算の都合でまだ全て浚渫できていないにも関わらず、7,8,9号の野積場に大量に土砂が野積みされている。</p> <p>今回浚渫してもらったおかげで、漁協としては助かっているが、自然災害のためいつ発生するか分からない。今回のような浚渫は何年か先にも必ず発生すると思われる。</p> <p>漁協として心配しているのは、浚渫がきちんと実行してもらえることである。</p> <p>今の計画では、浚渫土砂を揚げる場所が、4号A岸壁とその野積み場で、今年の量、過去の浚渫の量からも、とても小さく、十分な土砂を野積みできない。浚渫土砂を置く場所がいっぱいになり、土砂を揚げる場所がなくなれば、それ以上浚渫できないとなることが一番心配である。浚渫は漁師が一番影響が出るので、今の計画のボートパークの場所に浚渫土砂を揚げられるようにしてもらいたい。土砂の置き場の問題が一番心配なため、十分なスペースを空けてもらいたい。</p> <p>そのため、今の計画の物流とボートパークを変更してもらいたい。</p>	<p>本計画では、各施設の機能と機能の繋がりや、来訪者の動線などを考慮し、施設配置を計画しています。また、ボートパークについては、小型船舶の係留に必要な静穏域を確保するため、福岡県の調査結果に基づき現在の位置に配置しています。</p> <p>堆砂については、整備に併せ港湾管理者の福岡県に対策を講じてもらう予定です。ただし、災害により浚渫が必要となった場合は、福岡県と協議のうえ、対応する必要があると考えています。</p> <p>また、港湾計画の改定にあたっては、福岡県と国土交通省により協議が行われますが、国の方針や社会環境の変化によっては、施設配置など本計画から一部変更となることもありますので、ご意見として賜ります。</p>

番号	意見の概要	町の考え方
3	<p>せっかくお金をかけて整備するのであれば、将来海外の方や船旅の好きな方のため中規模程度の客船が寄港できる港を作っていただきたいと思います。特にカジノなどを併設したホテルなど建てていただければと思います。</p> <p>それに伴い、芦屋鉄道（モノレール）の復活を期待します。</p> <p>日本のドバイと言われるような。または、ユニバーサルスタジオの誘致などを行っていただきたいと思います。</p> <p>理由は芦屋町の活性化です。中途半端な箱物は、将来財政負担になりかねないと思います。</p>	<p>本計画は、地方港湾として位置づけられている「芦屋港」について、十分に活用されていない物流港の位置づけから、観光レジャー要素を持った港へ用途を変更し、芦屋町の海の魅力を活かした地方創生・観光まちづくりを推進する拠点となるための考え方を示したものです。</p> <p>また、福岡県と芦屋町で行う施設整備にあたっては、国の補助などを最大限活用し、ランニングコストを考慮しながら、少ない投資で高い効果が発揮できるよう、今後基本設計などにおいて詳細に計画するものです。</p> <p>いただいたご意見は、今後の芦屋町の活性化に対するご意見として賜ります。</p>
4	<p>基本的に、現在の“利用されていない芦屋港”の活性化を検討することには賛成です。その前提で、以下の点について考え方をお聞かせください。</p> <p>①「2（1）計画策定の目的」について</p> <p>本項目の最後に「この芦屋港活性化基本計画は、今後の事業化にむけた指針となるほか、芦屋港の用途を定めた港湾計画を福岡県において改定する際の参考資料として、芦屋町の考え方を示すものです。」と記載しているが、この表現だと、あくまでも主体は港湾管理者である福岡県で、福岡県の考え方次第では港湾計画改定の際に本計画が反映されない可能性もある、ということか？</p> <p>②「3（3）計画の位置付け」について</p> <p>本項目の最後にも前項と同じような表現があります。</p>	<p>①②</p> <p>芦屋港活性化にあたっては、物流港として十分に活用されていない現状や、港の立地、海を活かした観光推進を図ることなどを目的に、芦屋港を観光レジャー要素をもつ港としての用途変更や事業の推進について、平成21年度から港湾管理者である福岡県に対し要望や協議を重ねてきました。平成27年度には、福岡県による「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査」が行われ、ニーズ調査や関係者による意見交換などにより芦屋港を活性化させるための活用方策や機能についてまとめられ、将来案が示されるとともに、事業化に向けた課題が整理されました。</p> <p>この課題をさらに調査検討し、より実現性のある計画とするため、本計画をまとめたものです。</p> <p>計画策定にあたっては、町の附属機関である「芦屋港活性化推進委</p>

番号	意見の概要	町の考え方
4	<p>③「4（1）芦屋港の現状」について 現状は「特に西側は砂が堆積し十分な水深が確保されていない・・・」ということで定期的に浚渫をしていると思うが、レジャー港化した場合は、大型船が入港しないため浚渫は必要なくなるということか？</p> <p>④「5（5）事業主体」について 「事業の実施にあたっては、港湾管理者である福岡県と芦屋町が協力して実施することとします。」ということは、福岡県との合意形成はできており、港湾計画の改定に本計画は必ず反映される、という理解でよいのか？ さらに、施設の運営等に関して福岡県との分担は不明、とのことであるが、どのような配分であっても芦屋町として前に進む覚悟はあるのか？</p> <p>⑤「5（6）芦屋港の整備コンセプト」について 【コンセプト】芦屋町の魅力を五感で楽しむ魚食の拠点 「芦屋町の水産物、農産物を「見て、聞いて、触って、体験して、調理して、食べて」、様々な芦屋町の魅力を五感で楽しむ拠点施設と</p>	<p>員会」に港湾管理者の福岡県にも委員やオブザーバーとして加わってもらいとりまとめているため、港湾計画改定にあたっては本計画を反映されていくものと考えています。</p> <p>ただし、国の方針や社会環境の変化によって一部変更となることもありますので、本計画は必要に応じて見直しを行うこととしています。</p> <p>③ 堆砂については、整備に併せ港湾管理者の福岡県に対策を講じてもらう予定です。ただし、災害により浚渫が必要となった場合は、福岡県と協議のうえ、対応する必要があると考えています。</p> <p>④ 芦屋港の活性化のあり方については、港湾管理者である福岡県と合意形成はできています。今後は本計画をもとに詳細な協議を行っていくものです。</p> <p>事業推進にあたっては、一部には物流事業者が利用している状況もあるため、芦屋港全体のレジャー化・施設整備には時間を要することから、段階的な整備を図ることとし、施設整備にあたっては空間の有効活用、段階的整備に伴う機能の移転を図りながら、将来像を目指すこととしています。</p> <p>福岡県による事業実施については、今後も協議、要望を行っていく考えです。</p> <p>⑤ 芦屋町の現状と課題から、本計画（素案）69頁の将来ビジョンを定めたいうえで、コンセプトを導いていますが、将来ビジョンや、ご指摘のコンセプトと説明文の整合を取るため、次のように修正します。</p>

番号	意見の概要	町の考え方
4	<p>します。特に、漁協との近さを活かした「魚食の拠点」と位置付けます。」について、「水産物、農産物」との記載がある中で「魚食の拠点」と位置付けるのは違和感がある。</p>	<p>(修正後)</p> <p>漁協との近さを活かし、芦屋町の水産物を「見て、聞いて、触って、体験して、調理して、食べて」、様々な芦屋町の魅力を五感で楽しむ「魚食の拠点」とします。</p>

平成31年3月29日
港湾局海洋・環境課

「釣り文化振興促進モデル港」を指定しました

～青森港, 秋田港, 小名浜港, 相馬港, 新潟港, 直江津港, 熱海港, 清水港, 高知港, 下関港, 北九州港, 芦屋港, 別府港～

国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、平成31年2月から3月にかけて地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、13港を釣り文化振興促進モデル港として指定致しました。

地方創生を目的とした観光等の取組を進めている中で、国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の港湾施設の利活用を進めています。

一方、防波堤等での釣り人の転落事故等も見受けられますが、安全対策をしっかりとし、ルールを作り、関係機関の連携の下、防波堤等の港湾施設を多目的使用をしていくことが、むしろ事故の防止・減少につながることも考えられます。

このような背景の下、地域の関係者による釣り文化振興の取組が進められている港湾を、釣り文化の促進をする港湾「モデル港」として、2月4日から3月14日まで地元協議会等から募集し、今般、13港(青森港、秋田港、小名浜港、相馬港、新潟港、直江津港、熱海港、清水港、高知港、下関港、北九州港、芦屋港、別府港)を「釣り文化振興促進モデル港」として港湾局長が指定しましたのでお知らせ致します。

「モデル港」には、協議会等の効率的な運営に関する技術的な支援、(公財)日本釣振興会による安全対策やマナー教育への支援等を予定しています。

また、「モデル港」の取組を他港等へ広く積極的に紹介しつつ、日本釣振興会等と連携し、地方創生に向けた釣り文化振興の取組の促進を進めて参ります。

※(公財)日本釣振興会：釣りの全国団体で公益財団法人。全国各地において釣体験教室や釣り場の清掃活動、マナー教育等の釣りの振興に関する取組みを実施しています。

〈添付資料〉

- ・釣り文化振興促進モデル港一覧
- ・「釣り文化振興促進モデル港」の指定について(募集時資料)

【問い合わせ先】

港湾局 (代表) 03-5253-8111

海洋・環境課 港湾環境政策室 成川(内線46672)、青島(内線46673)

直通03-5253-8685、FAX03-5253-1653

釣り文化振興促進モデル港一覧

所在地	港名	協議会等
青森県	青森港	青森港釣り利用検討会
秋田県	秋田港	秋田港外港地区北防波堤釣り開放に向けた検討会
福島県	小名浜港	いわき小名浜みなとオアシス連絡協議会
	相馬港	新地町海釣り公園協議会
新潟県	新潟港	新潟港(東港区)第2東防波堤釣り開放等にかかる連絡会
	直江津港	直江津港第3東防波堤釣り開放等にかかる協議会
静岡県	熱海港	熱海港海釣り施設連絡協議会
	清水港	清水港フィッシングエリア振興協議会
高知県	高知港	高知港の利活用等にかかる協議会
山口県	下関港	下関港湾協会
福岡県	北九州港	北九州釣りいこか倶楽部
	芦屋港	芦屋港海釣り施設運営協議会
大分県	別府港	別府国際観光港みなとまちづくり協議会



【釣り文化振興促進モデル港】芦屋港



国土地理院地図（電子国土Web）(<http://maps.gsi.go.jp>)をもとに国土交通省作成



【対象港湾施設】東防波堤

: 対象港湾施設

【基本情報】

港湾名	芦屋港【地方港湾】
協議会等	芦屋港海釣り施設運営協議会
対象港湾施設	東防波堤
港湾管理者	福岡県
指定日	平成31年3月29日

【主な取り組み】

芦屋町では、芦屋港の活性化を地域創生の最重要施策として掲げ、観光レジャー要素を持つ港湾としての活用・活性化を推進している。

芦屋町内では、平成26年度より「ファミリーフィッシングin芦屋」等のイベントを開催しており、芦屋港活性化のひとつの機能として海釣り施設の設備充実について検討されている。

今後は、(公財)日本釣振興会をはじめ、町内の釣具店や釣り愛好家、漁協、小売店等と協議し、具体的な検討を行う予定。

【ファミリーフィッシング in 芦屋 過去の参加者数】

開催年月	当日参加者数 (申込数)	イベント内容
平成26年 9月 7日	50組 198人	親子釣り大会、稚魚放流、捌ぎ方教室
平成27年 9月 6日	(80組 245人)	*荒天のため中止
平成28年10月18日	23組 86人	親子釣り教室、稚魚放流
平成28年 9月 4日	(87組 101人)	*台風のため中止
平成28年 9月25日	37組 56人	親子釣り教室、稚魚放流
平成29年 5月28日	30組 80人	親子釣り教室、稚魚放流
平成30年 6月 3日	72組 103人	親子釣り教室、稚魚放流



ファミリーフィッシングin芦屋 開催状況